高峰マウンテンホテル キャンセルポリシー

◆【個人】の宿泊予約のキャンセルについて

宿泊予約の全部またはその一部をキャンセルした場合、当施設が定める宿泊約款に基づき、キャンセル料を下記の通り頂戴いたします。

対象人員泊数	不泊・無連絡	当日	前日	7日前～
9名以下	100%	80%	50%	30%

注1. パーセンテージは基本宿泊料金に対する違約金の比率です。

注2. 連泊予約において全ての宿泊日を取消した場合、宿泊日すべてに対して「取消率」で記入した取消料が発生いたします。

注3. 連泊予約において一部の宿泊日を取消した場合、その取り消した宿泊日全てに対して、「取消料率」で記入した取消料が発生します。

注4. 複数人数の予約において一部人員減少が発生した場合、予約人数にかかわらず、取消した人数に対して上記の取消料が発生いたします。

注5. 10名以上の宿泊予約をご希望のお客様はお問い合わせください。

宿泊約款・利用規則

高峰マウンテンホテルをご利用いただくにあたり、以下で定めております宿泊約款および利用規則をご同意いただいたうえで当ホテルのサービスをご利用くださいませ。

宿泊約款

第1条（適用範囲）

1. 当ホテルが宿泊客との間で締結する宿泊契約及びこれに関連する契約は、この約款の定めるところによるものとし、この約款に定めのない事項については、法令又は一般に確立された慣習によるものとします。
2. 当ホテルが法令及び慣習に反しない範囲で特約に応じたときは、前項の規定にかかわらず、その特約が優先するものとします。

第2条（宿泊契約の申込み）

当ホテルに宿泊契約の申込みをしようとする者は、次の事項を当ホテルに申し出て頂きます。

1. 宿泊者名及び電話番号（又は携帯電話番号）
2. 宿泊日及び到着予定時刻
3. 宿泊料金（原則として別表第1の基本宿泊料による。）
4. その他当ホテルが必要と認める事項
5. 宿泊客が、宿泊中に前項第2号の宿泊日を超えて宿泊の継続を申し入れた場合、当ホテルは、その申し出がなされた時点で新たな宿泊契約の申込みがあったものとして処理します。

第3条（宿泊契約の成立等）

1. 宿泊契約は、当ホテルが前条の申込みを承諾したときに成立するものとします。ただし、当ホテルが承諾をしなかったことを証明したときはこの限りではありません。
2. 前項の規定により宿泊契約が成立したときは、宿泊期間（3日を超えるときは3日間）の基本宿泊料を限度として当ホテルが定める申込金を、当ホテルが規定する日までに、お支払いいただきます。

3. 申込金は、まず、宿泊客が最終的に支払うべき宿泊料金に充当し、第6条及び第18条の規定を適用する事態が生じたときは、違約金に次いで賠償金の順序で充当し、残金があれば、第12条の規定による料金の支払いの際に返還します。
4. 第2項の申込金を同項の規定により当ホテルが指定した日までにお支払いいただけない場合は、宿泊契約はその効力を失うものとします。ただし、申込金の支払日を指定するに当たり、当ホテルがその旨を宿泊客に告知した場合に限ります。

第4条（申込金の支払いをしないこととする特約）

1. 前条第2項の規定にかかわらず、当ホテルは、契約の成立後同項の申込金の支払いを要しないこととする特約に応じることがあります。
2. 宿泊契約の申込を承諾するに当たり、当ホテルが前条第2項の申込金の支払いを求めなかった場合及び当該申込金の支払期日を指定しなかった場合は、前項の特約に応じたものとして取り扱います。

第5条（宿泊契約締結の拒否）

当ホテルは、次に掲げる場合において、宿泊契約の締結に応じないことがあります。

1. 宿泊の申込が、この約款によらないとき。
2. 満室により客室の余裕がないとき。
3. 宿泊しようとする者が、宿泊に関し、法令の規定、公の秩序若しくは善良の風俗に反する行為をするおそれがあると認められるとき。
4. 宿泊しようとする者が、伝染病者であると明らかに認められるとき。
5. 宿泊に関し合理的な範囲を超える負担を求められたとき。
6. 天災、施設の故障、その他やむを得ない事由により宿泊させることができないとき。
7. 宿泊しようとする者が泥酔者で、他の宿泊客に著しく迷惑を及ぼすおそれがあると認められたとき。あるいは宿泊客が他の宿泊客に著しく迷惑を及ぼす言動をしたとき（群馬県旅館業法施行条令第16条）。
8. 宿泊しようとする者が、暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団（以下「暴力団」という）、同法第2条第6号に規定する暴力団員（以下「暴力団員」という）またはその関係者その他反社会的勢力であるとき。
9. 宿泊しようとする者が暴力団または暴力団員が事業活動を支配する法人、その他の団体であるとき。
10. 宿泊しようとする者が法人で、その役員のうち暴力団員に該当する者がいるとき。

第6条（宿泊客の契約解除権）

宿泊客は、当ホテルに申し出て、宿泊契約を解除することができます。

1. 当ホテルは、宿泊客がその責めに帰すべき事由により宿泊契約の全部又は一部を解除した場合（第3条第2項の規定により当ホテルが申込金の支払期日を指定してその支払いを求めた場合であって、その支払いより前に宿泊客が宿泊契約を解除したときは除きます。）は、別表第2に掲げるところにより、違約金を申し受けます。ただし、当ホテルが第4条第1項の特約に応じた場合にあっては、その特約に応じるにあたって、宿泊客が宿泊契約を解除したときの違約金支払義務について、当ホテルが宿泊客に告知した場合に限ります。
2. 当ホテルは、宿泊客が連絡をしないで宿泊日当日の午後8時（あらかじめ到着予定時刻が明示されている場合は、その時刻を2時間経過した時刻）になっても到着しないときは、その宿泊契約は宿泊客により解除されたものとみなし処理することがあります。

第7条（当ホテルの契約解除権）

当ホテルは、次に掲げる場合においては、宿泊契約を解除することがあります。

1. 宿泊客が宿泊に関し、法令の規定、公の秩序若しくは善良の風俗に反する行為をするおそれがあると認められるとき、又は同行為をしたと認められるとき。
2. 宿泊客が伝染病者であると明らかに認められたとき。
3. 宿泊に関し合理的な範囲を超える負担を求められたとき。
4. 天災等不可抗力に起因する事由により宿泊させることができないとき。
5. 宿泊しようとする者が泥酔等により他の宿泊客に迷惑を及ぼすおそれのあるとき。他の宿泊客に著しく迷惑を及ぼす言動があるとき（群馬県旅館業法施行条令第16条）。
6. 寝室での寝たばこ、消防用設備等に対するいたずら、その他当ホテルが定める利用規則の禁止事項（火災予防上必要なものに限る。）に従わないとき。
7. 暴力団、暴力団員またはその関係者その他反社会的勢力であるとき。
8. 暴力団または暴力団員が事業活動を支配する法人、その他の団体であるとき。
9. 法人で、その役員のうちに暴力団員に該当する者があるとき。
10. 当ホテルが前項の規定に基づいて宿泊契約を解除したときは、宿泊客がいまだ提供を受けてない宿泊サービス等の料金は頂きません。

第8条（宿泊の登録）

宿泊客は、宿泊当日、当ホテルのフロントにおいて、次の事項を登録していただきます。

1. 宿泊客の氏名、性別、人数、年齢、電話番号（又は携帯電話番号）、住所及び職業
2. 外国人にあつては、国籍、旅券番号、入国地及び入国年月日
3. 出発日及び出発予定時刻
4. その他当ホテルが必要と認める事項
5. 宿泊客が第12条の料金支払いを、旅行小切手、宿泊券、クレジットカード等の通貨に代わり得る方法により行おうとするときは、あらかじめ、前項の登録時にそれらを呈示していただきます。

第9条（客室の使用期間）

1. 宿泊客が当ホテルの客室を使用できる時間は、午後3時から翌日の午前11時までとします。
2. 当ホテルは前項の規定にかかわらず、同項に定める時間外の客室使用に応じることがあります。この場合には次に掲げる追加料金を申し受けます。
3. 超過1時間ごとの税込料金
1名の場合 1,500円、2名の場合 2,000円、3名の場合 2,500円、4名の場合 3,000円、
5名の場合 3,500円
ただし、午後2時以降は1泊分の宿泊料金となります。

第10条（利用規則の遵守）

宿泊客は、当ホテルにおいては、当ホテルが定めてホテル内に提示した利用規則に従っていただきます。

第11条（営業時間）

1. 当ホテルの主な施設等の営業時間は備え付けパンフレット、各所の掲示、客室内のインフォメーション等でご案内いたします。
2. 営業時間は必要やむを得ない場合には、臨時に変更する場合があります。その場合は適当な方法をもってお知らせいたします。

第12条（料金の支払い）

1. 宿泊客が支払うべき宿泊料金等の内訳及びその算定方法は、別表第1に掲げるところによります。

2. 前項の宿泊料金等の支払いは、通貨又は当ホテルが認めた旅行小切手、宿泊券、クレジットカード、又はこれに代わる方法により宿泊客の出発の際、又は当ホテルが請求した際にフロントキャッシャーにおいて行っていただきます。
3. 当ホテルが宿泊客に客室を提供し、使用が可能になった後に宿泊客が任意に宿泊しなかった場合においても宿泊料金は申し受けます。

第 1 3 条 (当ホテルの責任)

1. 当ホテルは、宿泊契約及びこれに関連する契約の履行に当たり、又はそれらの不履行により宿泊客に損害を与えた時は、その損害を賠償します。ただし、それが当ホテルの責めに帰すべき事由によるものでないときは、この限りではありません。
2. 当ホテルは、消防機関から認定通知書を受領しております。

第 1 4 条 (契約した客室の提供ができないときの取扱い)

1. 当ホテルは、宿泊客に契約した客室を提供できないときは、宿泊客の了承を得て、できる限り同一の条件による他の宿泊施設を斡旋するものとします。
2. 当ホテルは、前項の規定にかかわらず他の宿泊施設の斡旋ができないときは、違約金相当額の補償料を宿泊客に支払い、その補償料は損害賠償額に充当します。ただし、客室が提供できないことについての、当ホテルの責めに帰すべき事由がないときは、補償料を支払いません。

第 1 5 条 (寄託物等の取扱い)

1. 宿泊客がフロントにお預けになった物品又は現金並びに貴重品について、滅失、毀損等の損害が生じたときは、それが不可抗力である場合を除き、当ホテルはその損害を賠償します。ただし、現金及び貴重品については、当ホテルがその種類及び価額の明告を求めた場合であって、宿泊客がそれを行わなかったときは15万円を限度としてその損害を賠償します。
2. 宿泊客が、当ホテル内にお持込みになった物品又は現金並びに貴重品であってフロントにお預けにならなかったものについては、当ホテルの故意又は過失により滅失、毀損等の損害が生じたときは、当ホテルはその損害を賠償します。ただし、宿泊客からあらかじめ種類及び価額の明告がなかったものについては、15万円を限度としてその損害を賠償します。

第16条（宿泊客の手荷物又は携帯品の保管）

1. 宿泊客の手荷物が、宿泊に先立って当ホテルに到着した場合は、その到着前に当ホテルが了解したときに限り責任をもって保管し、宿泊客がフロントにおいてチェックインする際にお渡しします。
2. 宿泊客がチェックアウトしたのち、手荷物又は携帯品が当ホテルに置き忘れられている場合において、当ホテルは原則として所有者から照会の連絡を待ちその指示を求めます。所有者の指示がない場合、貴重品については発見日を含め7日以内に最寄りの警察署に届け、その他の物品については3ヶ月経過後処分いたします。ただし飲食物・たばこ・雑誌等は即日処分します。
3. 前2項の場合における宿泊客の手荷物又は携帯品の保管についての当ホテル責任は第1項の規定に、前項の場合にあつては同条第2項の規定に準じるものとします。

第17条（駐車場の責任）

宿泊客が当ホテルの駐車場をご利用になる場合、車両のキーの寄託の如何にかかわらず、当ホテルは場所をお貸しするものであって、車両の管理責任まで負うものではありません。ただし、駐車場の管理にあたり、当ホテルの故意又は過失によって損害を与えたときは、その賠償の責めに任じます。

第18条（宿泊客の責任）

宿泊客の故意又は過失により当ホテルが損害を被ったときは当該宿泊客は当ホテルに対し、その損害を賠償していただきます。

【別表第1】 宿泊料金等の内訳（第2条第1項及び第12条第1項関係）

内訳		
宿泊客が支払うべき 総額	宿泊料金	基本宿泊料金（室料）
	追加料金	飲食代及び売店品代やその他施設の利用料金
	税金	消費税

備考：税法が改正された場合は、その改正された規定によるものとします。

10. 客室を当ホテルの許可なしに宿泊および飲食以外の目的にご使用にならないでください。
11. ホテル内の営業施設以外の場所に許可なく立ち入ったり、立ち入りを強要なさらさないでください。
12. ホテル内に当ホテルの許可なしに飲食物をお持ち込みにならないでください。
13. ホテル内では当ホテルの許可なしに、広告物の配布、掲示または物品の販売等はなさらさないでください。
14. 廊下やロビー等の場所に所持品を放置なさらさないでください。
15. 郵便物などの代金お立替えはお断りさせていただきます。
16. お忘れ物、遺失物の処理は法令にもとづいてお取り扱いさせていただきます。
17. ご予約のない場合または宿泊当日のご予約は原則としてお預り金を申し受ける場合がございます
18. ご宿泊に際し現金、貴金属等の貴重品はフロントにお預けください。それ以外の場所での紛失につきましては一切責任を負いかねます。
19. ホテル内のレストラン、カフェバー、売店等をご署名によってご利用される場合は、客室のカードキーをご提示ください。
20. ご訪問客とのご面会はロビーにてお願いしておりますので客室内ではご遠慮願います。
21. 未成年者のみのご宿泊は特に保護者の許可のない限りお断りさせていただきます。
22. ご予定の宿泊日数を変更なさる場合は予めフロント係員にご連絡ください。ご延長の場合はそれまでのお支払いをお願い申し上げます。
23. ご滞在中、フロントからお勘定書の提示がございましたらその都度お支払いください。
24. 料金のお支払いは通貨又は当ホテルが認めた旅行小切手、クーポン券、若しくはクレジットカードによりフロントにてお支払いください。尚、旅行小切手以外の小切手でのお支払いには応じかねますのでご了承ください。
25. ホテル内で撮影された写真等を営業上の目的で公になさることは、法的処置の対象となることがありますのでご注意ください。
26. パジャマ、スリッパなどでの1階ご利用は非常時以外ご遠慮ください。
27. ご在室中や特にご就寝の時はドアの内鍵やドアロックをお掛けください。来訪者のあった時は不用意に開扉なさらずドアスコープにてご確認ください。
28. お客様の安全上の観点から、客室のドアに「Do not disturb/起こさないでください」のカードを提示されている場合であっても、長時間に渡ってお客様と連絡が取れていない場合には、ホテル従業員が客室への電話連絡や客室前での呼び出しを行います。また、応答がない場合や緊急時など、当ホテルが必要と判断した場合は、やむを得ず客室に入室を行いますのでご了承ください。
29. 上信越高原国立公園内の動植物は国の自然公園法により保護されておりますので捕獲、殺傷、採取またはお持ち込みにならないようお願い申し上げます。
30. カードキーは当ホテルご出発の際、必ずフロントへご返却ください。紛失の際は、実費を弁償頂く場合がございます。

【別表第2】 違約金（第6条第2項関係）

ご連絡なしの不泊：100% / ご宿泊日の当日：80% / ご宿泊日の前日：20%

（注）1.%は基本宿料に対する違約金の比率です。

2. 10名以上の団体予約に関しては、ホテルが別途定める団体違約金をご案内いたします。

利用規則

高峰マウンテンホテルでは、宿泊約款第10条に基づき、当ホテルの品位を保ち、またお客様が当ホテルに滞在中に快適にかつ安全にお過ごしいただくことを目的とした利用規則を下記の通り定めておりますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。万一この規則に対してご協力いただけなかった場合は、宿泊約款第7条第1項により、客室及び当ホテル内の諸設備のご利用をお断り申し上げることがあります。また、お客様のご協力が得られなかった結果生じた事故については、当ホテルでは責任を負いかねますので、その旨ご了承くださいますようお願い申し上げます。

1. ホテルが指定する場所以外での喫煙はご遠慮ください。
2. ホテル内で暖房用、炊事用等の火器はご使用にならないでください。
3. ホテル内に次のようなものをお持ち込みにならないでください。
 - (1) 動物などその他のペット類一般（但し、盲導犬を除きます）
 - (2) 悪臭・異臭を発生するもの
 - (3) 著しく多数量な物品
 - (4) 火薬・摘発油等発火又は引火しやすいもの
 - (5) 所持を許可されていない鉄砲、刀剣類
 - (6) その他、他のお客様の安全性を脅かす物件と認められるもの
4. ホテル内ではたばこまたは風紀を乱すような行為はなさらないでください。
5. ホテル内で他のお客様にご迷惑を及ぼすような高声、放歌、または喧騒な行為はなさらないでください。
6. 睡眠薬その他の薬物の使用により、他のお客様あるいはホテルに迷惑をかける行為はおやめください。
7. 他のお客様に不快感を与えたり、迷惑をおかけするような疾病をお持ちの方のホテル利用はお断りさせていただきます。
8. ホテル内の諸設備物品を当ホテルにご相談なく他の場所へ移動させる等、現状を変更するようなことはなさらないでください。
9. 不可抗力以外の事由により建造物、家具、備品その他の物品を損傷、紛失、あるいは汚染された場合には、相当額を弁償していただくことがあります。